

内外交差点

そらとぶタクシー業界の今！ 主要各社の取り組み状況や技術の進歩について

實上 卓音氏（そらとぶタクシー社長） 第3/12回

今月のコラムでは現在の弊社を含めた主要各社の取り組み状況や技術の進歩について、という内容でお話させていただきます。

さて日本に5つ程そらとぶクルマ関係の会社がありますが、その中でも弊社は「事業化」に向けて最前線を走っています。現在、航空局から航空運送事業許可（AOC）を取得するための申請準備を進めており、専門人材の採用も積極的に行っています。航空業界経験者や航空の行政機関出身者をチームに加え、タクシー業界で培った現場対応力と運行管理のノウハウを組み合わせることで、現実的かつ安全な空の交通を実現する体制を整えつつあります。

弊社の現状のコアメンバーとしては、CEOの實上卓音、COOの實上和音に加え、航空機の操縦ができる元航空局のCTO、元USJの副社長であるCFOの4人の取締役によって経営されており、さらに事業用航空免許保持者が2人以上、大手航空会社で20年以上機長していた人材や航空機整備ができるスタッフを5人以上をすでにそろえております。

人材のクオリティと安全性は最も関連性が高い部分ですので、我々は妥協なく人材を集めて航空機（そらとぶクルマ）の飛行許可が下りるまで準備を進めてまいります。またそらとぶクルマの機体については、韓国の先進スタートアップであるPLANA社と提携しており、同社が開発する長距離・大容量タイプの機体を日本に50機導入します。弊社は日本国内における独占の合意を結んでおり、27年中には最初の機体を受領、テストフライトを開始する見通しです。

PLANA社は最近、製造・認証拠点を韓国からアメリカへ移し、米国連邦航空局（FAA）の型式認証を先行取得する戦略へと舵を切りました。これにより、日本国内での型式証明手続きにも好影響を与えることが期待されています。

このような国際的な認証の動きは、今後のeVTOL市場全体においても重要なトレンドです。多くの企業が米国や欧州で先に型式証明を取得し、それを基に他国での認可を進める「相互認証」方式がスタンダー

ドになりつつあります。つまり、単なる飛行試験ではなく、商業運航を見据えた“空の道づくり”が求められているのです。



一方日本国内では、その他企業が「空飛ぶクルマ」という表現で技術デモンストレーションを行っており、例えば大手商社や自動車メーカーが短距離飛行や展示を進めています。ただし、実際に人を乗せて目的地まで移動させるという、本域に踏み込んでいる企業はまだありません。大阪・関西万博をゴールに据えた一過性のプロジェクトに留まっているケースも見受けられます。弊社は、むしろ「万博の後」にこそ真のビジネスチャンスがあると捉えています。訪日観光客や国内富裕層の“移動の質”を劇的に変えるため、大阪を起点に関西一円から四国・中国、あるいは東京・名古屋への都市間移動といった、実需のあるルートを積極的に設計しています。その旅行の設計や提供については、おそらく大手の旅行会社からの販売になる事を予測しています。

そこで私たちは、今そのゆるぎない価値の提供を法改正とその認可とともにスムーズに始める事ができるように、日々活動の幅を広げています。例えば市場の獲得の為に独自の旅行の販売パートナーと連携してプランを作成したり、お客様が安心して搭乗できるように各種保険を準備したり、市場をリードできるように業界でもいち早くのIPOの準備を進めている等、様々な事に日々取り組んでいます。

ハイヤー移動に代わるプレミアムかつ超高速な移動。単なる移動を「記憶に残る体験」に変えることを目指しています。価格帯は従来のハイヤーと比べて高額ではあるものの、すでに富裕層顧客リストを保有しており、十分な潜在需要があることが確認されています。また、弊社は地上の移動における経験と信頼を持つ事業者として、空と地上を一貫して提供できる点でも他社との差別化が可能です。

27～28年に本格的な商用運航が始まると見られている中、今後も各社の認証状況やインフラ整備、制度設計の進捗が業界全体の成長を左右する重要な要素となります。弊社は、単なる技術導入ではなく、社会に必要とされる“移動の未来”を形にする存在として、空飛ぶタクシーの社会実装に挑み続けてまいります。